松本市立病院　医療だより

えがおプラス

2026
11月号
Vol.04
TAKE FREE

「ポリファーマシー」をご存じですか？

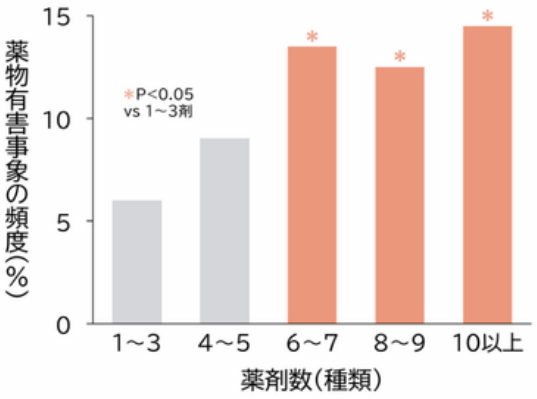
～その症状はお薬の副作用かもしれません～

ポリファーマシーとは？



「ポリファーマシー」とは、多くのお薬を服用しているため、副作用につながる状態や飲み間違いなど、きちんとお薬を服用できていない状態のことをいいます。単純に服用しているお薬が多いことではありません。特に高齢者の患者さんは、生活習慣病などが重なり複数の医療機関を受診するため、処方されるお薬も多くなり、ポリファーマシーになりやすい傾向があります。

ポリファーマシーは、患者さんの病態や生活環境によっても変化するため、何種類以上をポリファーマシーとするといった厳密な定義はありませんが、高齢者の患者さんでは処方されるお薬の種類が６つ以上になると副作用の発生リスクが高まることが分かっています。



出典：厚生労働省　高齢者の医薬品適正使用の指針 総論編より

病気だと思ったらお薬の副作用だった！

ポリファーマシーでは、お薬の副作用も起こりやすくなります。特に高齢者の患者さんでは、お薬を体内で分解する働きや、腎臓など排泄する機能が弱くなるため、お薬が効きすぎてしまい副作用がさらに起こりやすくなります。ふらつきや食欲不振など「調子が悪いけど病気かな？」と思っていたら、実は服用しているお薬が原因だったという可能性もあります。

ポリファーマシーで起こりやすい副作用の症状



ポリファーマシーを予防するためには

お薬手帳を持ちましょう！



「お薬手帳」は服用しているお薬の名前などを記録できる手帳です。服用しているすべてのお薬を把握できるように、手帳を一つにまとめて記録することで、医師や薬剤師はお薬の飲み合わせを確認したり、重複を防ぐことができます。

かかりつけ薬局を利用しましょう！



患者さんご自身で選んだ薬局で、服用しているお薬の情報を一つにまとめて管理し、お薬の飲み合わせや重複を確認したり、効果や副作用を継続的に確認してもらえます。また、飲み残してしまったお薬（残薬）の整理や、飲み忘れがないように一人一人に合った服用方法を提案してもらえます。

治療すべき病気の数や状態によって必要なお薬の数は異なりますので、服用するお薬の種類が多いことは必ずしも悪いことではありません。もし「私のお薬、多すぎないかな？」と感じたら、かかりつけの医師や薬剤師に相談してみましょう。

＼執筆を担当してくれたのは／



薬剤部長　御子柴 雅樹

次号もお楽しみに！

松本市立病院
Matsumoto City Hospital
TEL.０２６３－９２－３０２７（病院代表）
電話予約受付時間　１３：３０～１６：３０
※当日の受診相談やご予約は、いつでも受け付けております。